

別紙 「青谷弥生人ミュージアムキャラバン」 主な展示品

	<p>1 弥生の少年復顔像 鳥取県立青谷かみじち史跡公園蔵</p> <p>2000年に出土した第1頭蓋を元に復元された弥生時代後期後半(約1850年前)の少年像。年齢は10代前半。DNA分析によって両親とも渡来系であることが判明しています。公募によって「青谷来渡(あおやらいと)」と名付けられました。鳥取県外初展示。</p>
	<p>2 第20次発掘調査出土人骨 鳥取県立青谷かみじち史跡公園蔵</p> <p>2022年度～2023年度に実施した青谷上寺地遺跡第20次発掘調査では、約600点の人骨が出土しました。</p> <p>これまでの調査でほとんど見つかっていなかった若年層の骨(写真は幼児の顎の骨)が顕著に含まれるなど、新たな知見が得られました。</p>
	<p>3 第20次発掘調査出土遺物 鳥取県立青谷かみじち史跡公園蔵</p> <p>第20次発掘調査では、人骨のほかにも、骨角器や金属器(写真は銅鏃)など保存状態の良い多種多様な遺物が大量に出土しています。主要なものを鳥取県外で初めて展示します。</p>
	<p>4 木製高杯(たかつき) 鳥取県立青谷かみじち史跡公園蔵</p> <p>青谷上寺地遺跡では、洗練されたデザインの木製容器が製作され、交易品として日本海沿岸の各地に運ばれました。写真はその代表例である花卉高杯の脚部で、赤彩されています。</p>